

聖路加国際大学大学院のDNP（Doctor of Nursing Practice）コース立ち上げの経緯と展望

著者	萱間 真美
雑誌名	聖路加看護学会誌
巻	23
号	2
ページ	45-47
発行年	2020-01-31
URL	http://doi.org/10.34414/00015339



【第24回聖路加看護学会学術大会：教育講演】

聖路加国際大学大学院のDNP(Doctor of Nursing Practice) コース立ち上げの経緯と展望

萱間 真美

I. はじめに

聖路加国際大学大学院（以下、本学）では、2015年度に実施した博士後期課程の定員増に際して、上級実践看護師（本学では専門看護師）が取得すべき学位について検討した。Implementation Research 主体に養成するという概念はその時点では念頭になかった。EBN (Evidence-Based Nursing) を学び、現場での調整や相談を通してケアの質を向上させる (QI: Quality Improvement) 役割を担う上級実践家が、博士後期課程でなにを探求すべきかを検討した結果、現在わが国も含め国際的に推進されようとしている Implementation & Dissemination Science に行き着いた。

われわれの思考プロセスを振り返ることは、看護学と Implementation Research との関連を描くことにもつながると考え、DNP (Doctor of Nursing Practice) コース立ち上げの経緯と今後の展望を述べる。

II. DNP コースへの関心

本学では2011年から2012年にかけて、大学の将来構想を検討する委員会がすべての常勤教職員によって構成され、検討が進んだ。当時のアイデアで現在実現しているものはいくつかあるが、DNP コースの設置も将来構想のアイデアのひとつであった。なお、このときの検討の経緯は、『看護研究』誌の50巻1号（2017）の特集に詳細があるため、そちらを参照していただきたい(萱間, 2017)。2015年、本学では看護学研究科大学院博士後期課程の定員をそれまでの10人から20人に増員することが決まり、全体構想のなかで、研究者コースと上級実践コース各10人とすることを計画した。

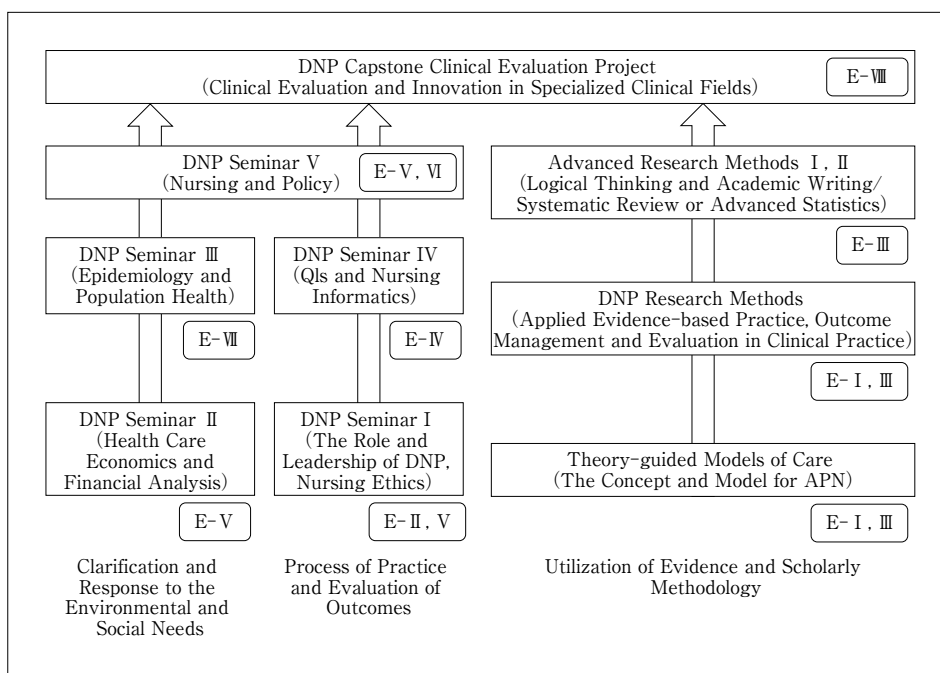
本学博士前期課程の大きな特徴は、制度発足当時から多くの専門看護師教育課程を開講し、多数の専門看護師を輩出してきたことであり、初期の専門看護師取得者には、大学教員として後進の指導にあたるために、博士の学位を取得する必要に迫られている人も多かった。上級実践コースでは修士論文に代えて課題研究を実施する。

研究のレベルには個人差があるが、修士論文を作成した経験がない上級実践コースの修士生は、博士後期課程で研究者コースを選択した場合、テーマの焦点化や方法論の綿密な検討に際して、研究者コースの学生と比較して苦勞することがあった。博士後期課程でこうした学生を指導する場合に、そうした力を強化できる科目が必要であることも大学院で指導にあたる教員たちは感じていた。

III. DNP カリキュラムの検討

DNP の学位は、当時アメリカのみで授与されていた。そのため、学術連携を結んでいるアメリカの大学に範を求めた。教員が訪問して指導者へのインタビューや授業への陪席を行ったのは、UNC (University of North Carolina at Chapel Hill; ノースカロライナ大学チャペルヒル校)、OHSU (Oregon Health & Science University; オレゴンヘルスサイエンス大学)、SMU (Samuel Merritt University; サミュエルメリット大学)、DU (Duke University; デューク大学)、来日した専門家や留学中の卒業生から情報を得たのは UC (University of Colorado; コロラド大学)、UIC (The University of Illinois at Chicago; イリノイ大学シカゴ校)、UCLA (University of California, Los Angeles; カリフォルニア大学ロサンゼルス校) などであった。それぞれの場で最大限の配慮をいただき、便宜を図っていただいたことに、この場をお借りして心から御礼を申し上げたい。

アメリカの DNP 教育の指針は2006年に American Association of Colleges of Nursing (AACN) が DNP Essentials を公表し、各養成機関ではこれを基本にカリキュラムを開発している (American Association of Colleges of Nursing, 2006)。DNP ワーキンググループでは、この資料をみなで和訳し、数回に分けてプレゼンテーションと討論を繰り返した。本学ではすでに研究者コースのカリキュラムを23単位で構成しており、DNP コースの申請は定員をあらかじめ20人に増員した後、定員内の一部として申請することとしていた。そのため、その単位数のなかでどう科目を構成できるかという考え方で構成していった。この作業は、看護の上級実践とそのエビデンスを調べ、生かし、実践を変革するために必



E-I : DNP Essentials I (AACN)

図1 Subjects and corresponding DNP Essentials

要な能力を整理する作業でもあり、看護学の博士後期課程教育を見直す機会にもなった。開発した教育カリキュラムを図1に示す。

IV. DNP プロジェクトにおける Implementation Research

DNP コースを開講するにあたって、教員は学術連携協定校である UNC より、毎年非常勤で短期派遣していただくこととなった。本学の卒業生である余善愛教授が学内調整をしてくださり、UNC で本学のコースワークをプレゼンテーションする機会も設けていただいた。2018年度は余教授と Toles 博士の2人が来学されることになった。2週間の集中講義と研究のコンサルテーションは、強行スケジュールともいえる。しかしこれが、フルタイムで、アメリカで教育・研究活動にあたっている現役教員を招へいすることの現実である。

DNP コースの集大成は、博士の学位論文にあたる DNP プロジェクトである。学生がテーマを絞り、実践の場で変革を起こすためには、このプロジェクトを学ぶためのガイドラインが大きな役割を果たすと考えられた。来日を控えた UNC のお二人と Skype で会議を重ねていた。時差が13時間あり、こちらの早朝が深夜に3人で Skype をすることが多かった。出張先の北海道でも会議をした。ある朝 Toles 博士が、「この内容は Implementation Research といえると思う。その位置づけをして教育しよう」と投げかけられた。筆者の知識が乏しかったので、Implementation Research のことは、実はよくわからなかった。しかし、Toles 博士から送られてきた緻密

なガイドラインのドラフトは、エビデンスの探し方と用い方を学んだうえで、小さくてもよいのでそれを実践に使って変化を起こすという意図を具現化したものであり、それが、われわれのカリキュラムが目指すものであったため、筆者はそれに同意した。これが、DNP コースでの Implementation Research 教育の始まりであった。

当時、Toles 博士は、アメリカの NIH (National Institute of Health) が強力に推進している Implementation Research の研究助成を受けて、ナーシングホームから自宅に帰る高齢者の退院指導に関する多施設研究に取り組まれていた。その発想と本学での DNP 教育がリンクしたのだと思う。

V. Implementation Research の備えるべき要素

表1は、Proctor ら (2012) が示した Implementation Research のファンドを獲得しようとする際に、研究計画書が備えておくべき要件である。

本学 DNP コースの学生は、修士課程修了後に3年間の専門看護師または教育、管理における実務経験があることを受験資格としている。社会人院生であることが前提であり、自身の実践フィールドをもっていることも求めている。

修士課程での教育を受け、役割開発を行って実践の場で変化を起こすために、実践の場でケアの質に着目した活動を行い、問題を特定し、関係する部署や管理者との合意形成を行う。それが新しいプログラムを導入することであれば、プログラムを周知し、理解を深め、チーム

表1 The key ingredients for implementation research proposal

1. The care gap of quality gap
2. The evidence-based treatment to be implemented
3. Conceptual model and theoretical justification
4. Stakeholder priorities, engagement in charge
5. Setting's readiness to adopt new service/treatments/program
6. Implementation strategy/process
7. Team experience with the setting, treatment, implementation process
8. Feasibility of proposed research design and methods
9. Measurement and analysis section
10. Policy/Funding environment. Leverage or support for sustaining charge

出典) Proctor E, Powell B, Baumann A, et al.(2012) : Writing implementation research grant proposals ; Ten key ingredients. *Implementation Science*, 7, Article number : 96.

アプローチを用いてプログラムが理念に忠実に浸透していくことを図るであろう。実践する人たちが進歩を実感し、評価できる基準を提示することも求められる。それが、DNP プロジェクトが備えるべき要件である。

DNP コースの学生は1年次に理論を学び、その基盤のうえに予備調査を行って現場の合意形成を図っていく。2年次の秋に研究計画書を作成し、現場の副査を交えた公開審査を受け、倫理審査を経てQIサイクルを回し、3年次に結果をまとめて提出することを目指す。第1期生は、2020年3月に修了予定である。

VI. 今後の課題

EBN, EBP (Evidence Based Practice) の知は集積途上であり、介入のためのプログラムが確立されていない場合も多い。文献レビューの方法論を詳細に学ばなければ、関連する知識を十分活用することは難しい。研究方法論としてImplementation Researchだけを学ぶのではなく、エビデンスを活用する際の研究結果の解釈と評価、QIを回すために必要な知識も多くある。量的・質的双方のデータを駆使する技術が求められる。

しかしこれらは、研究者コースでも同じように大切である。この気づきから、2019年度入学生からは、研究者コースと上級実践コースの授業を分けて実施していたことを改め、研究方法論の科目を細分化して研究タイプに

応じた科目を樹立し、双方のコースの学生が必要に応じて共に選べるように改訂した。このことによって研究者コースの教育もまた豊かになったと感じている。

多職種によるチームビルディング教育も今後の課題である。臨床で変化を起こすために、看護職が孤立してできることはまずない。目標をケアの質向上、患者のアウトカムにおく限り、チームの目標として共有される必要がある。看護を志向しながらも、多職種が集い、研究成果を共有するためにはどんな配慮が必要か、このプロセスで見いだされることを期待している。

VII. おわりに

DNP コースを構想し、カリキュラムを編み、入ってきた学生たちと共に実装していくことを振り返れば、かかわったすべてのメンバーに共通していたのが、このコースは看護学に本質的に必要なものであるという感覚であった。多忙な毎日のなかで、やったことのない授業にチャレンジすることをいという人がいなかったことを誇りに思う。2020年3月に、われわれは大きな喜びとともに、第1期生の修了を祝うことができるであろう。その日を学生と共に待ちわびるこのごろである。

聖路加国際大学大学院看護学研究科 DNP ワーキンググループ (2015~)

麻原きよみ***, 大橋明子*, 奥裕美, 宇都宮明美**, 大久保暢子, 片岡弥恵子, 亀井智子, 萱間真美, 小林京子, 小林真朝**, 新福洋子***, 鈴木美穂****, 長松康子, 林直子***, 堀内成子***, 三浦友理子, 山田雅子***, 吉田千文 (*~2016, **~2017, ***2018~, ****2019~)

引用文献

- American Association of Colleges of Nursing (2006) : *The Essentials of Doctoral Education for Advanced Nursing Practice*. <http://www.aacn.nche.edu/publications/position/DNPEssentials.pdf> (2019/10/16).
- 萱間真美 (2017) : わが国のDNP教育に求められるもの. 特集 DNPの理念と実際; 専門看護師をさらに育てる博士課程教育, *看護研究*, 50 (1) : 59-64.
- Proctor E, Powell B, Baumann A, et al.(2012) : Writing implementation research grant proposals ; Ten key ingredients. *Implementation Science*, 7, Article number : 96.